

# 定 期 作 況 報 告

平成21年7月  
(7月20日現在)

北海道立北見農業試験場

# 1. 気象経過

6月下旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて高かった。降水量は平年並であった（平年比110％）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比138％）。

7月上旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年よりやや高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比293％）。日照時間は平年並であった（平年比93％）。

7月中旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて低かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比200％）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比72％）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温は平年並、降水量は平年より極めて多く、日照時間は平年並であった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

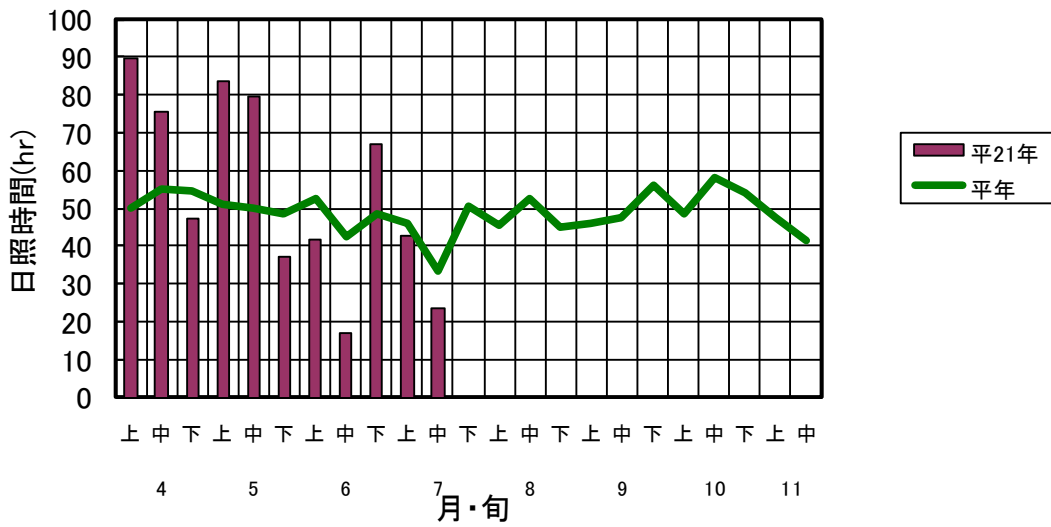
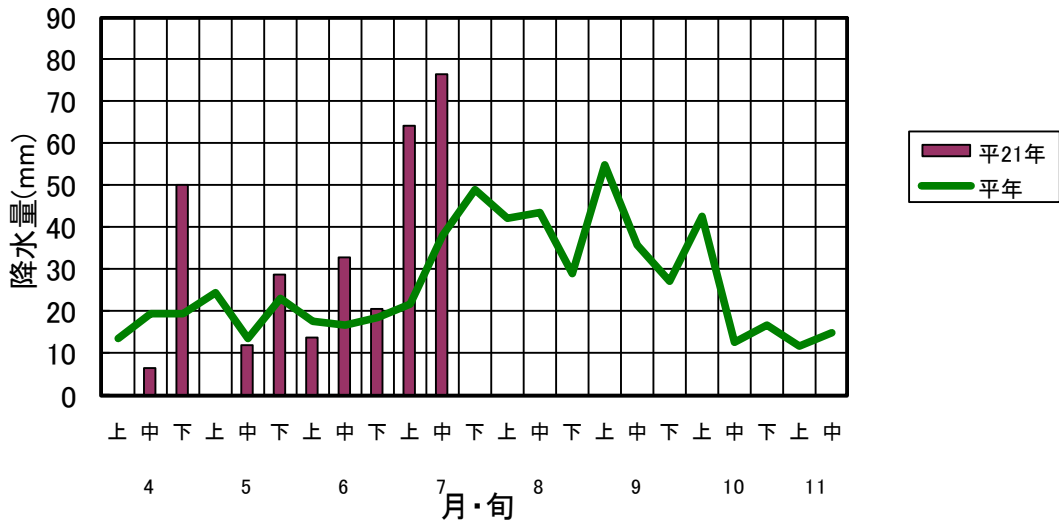
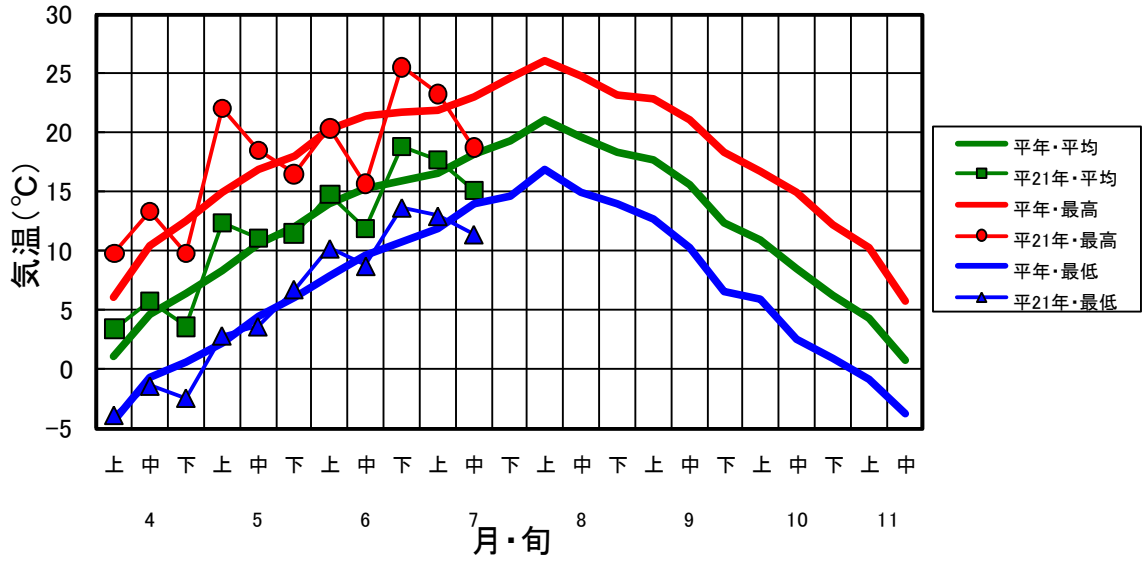
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	18.9	15.9	3.0	25.6	21.8	3.8	13.7	10.8	2.9
7月上旬	17.7	16.7	1.0	23.3	21.9	1.4	13.0	11.9	1.1
7月中旬	15.2	18.2	△ 3.0	18.8	23.1	△ 4.3	11.5	14.0	△ 2.5

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	20.5	18.7	1.8	66.7	48.5	18.2
7月上旬	64.5	22.0	42.5	42.9	46.1	△ 3.2
7月中旬	76.5	38.2	38.3	23.7	33.1	△ 9.4

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作 況：平年並

事 由：7月上中旬の日照時間は平年並からやや少なく、降水量は極めて多かったことから、稈長は平年より長く、生育は徒長気味である。7月8日に強風を伴った短時間の豪雨があり、一部の試験区で倒伏している。また、穂長はほぼ平年並で、穂数は多いものの、7月中旬の気温が極めて低かったことから、登熟は緩慢となっている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (成熟期)	95	84	11
穂長(cm) (成熟期)	8.1	8.2	△0.1
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (成熟期)	770	703	67

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：6月下旬の気温は極めて高く推移したことから生育は回復し、出穂期はほぼ平年並となった。7月上旬も気温は高く推移し、降水量、日照時間が確保されたことから生育は旺盛で、稈長は平年より長く、穂長は平年よりわずかに短い、穂数は多い。また、7月8日の強風と短時間豪雨により倒伏が発生している。

以上のことから目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月・日)	6.25	6.24	1	6.24	6.24	0
稈長(cm) (7月20日)	89	81	8	92	86	6
穂長(cm) (7月20日)	7.8	8.0	△0.2	7.7	8.1	△0.4
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	613	497	116	666	498	168

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 平年並

事 由 : 7月中旬の気温が極めて低かったことから節間伸長が進まず、草丈は平年より約8cm低い、葉数は平年並に達している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	139.6	147.2	△ 7.6
葉数(枚) (7月20日)	12.0	12.0	0.0

注) 平年値は前5か年の平均 (供試品種を変更したため)。

4) 大 豆

作 況 : やや不良

事 由 : 6月下旬の気温が極めて高かったことから生育はやや回復した。しかし、7月中旬は極めて低温に推移し、日照時間もやや少なかったため、主茎長は平年を大きく下回っている。本葉数ならびに分枝数も平年をやや下回っている。さらに、開花始の平年値は7月20日であるが、本年はまだ達していない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.20	—	—	7.20	—
主茎長(cm) (7月20日)	40.0	43.9	△ 3.9	36.0	43.5	△ 7.5
本葉数(枚) (7月20日)	6.3	6.6	△ 0.3	6.1	6.4	△ 0.3
分枝数(本/株) (7月20日)	3.0	3.1	△ 0.1	2.5	2.7	△ 0.2

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：やや不良

事由：6月下旬の気温が極めて高かったことから生育はやや回復した。しかし、7月中旬は極めて低温に推移し、日照時間もやや少なかったため、主茎長、本葉数、分枝数は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm) (7月20日)	11.5	14.4	△ 2.9	11.6	15.3	△ 3.7
本葉数(枚) (7月20日)	5.1	5.4	△ 0.3	4.7	5.5	△ 0.8
分枝数(本/株) (7月20日)	0.1	1.6	△ 1.5	0.3	1.4	△ 1.1

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：6月下旬の気温が極めて高かったことから生育は大きく回復した。そのため、本葉数は平年をやや下回っているものの、草丈、分枝数は概ね平年並からやや上回っている。なお、開花始は、「大正金時」で3日、「福勝」で2日遅れた。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.9	7.6	3	7.10	7.8	2
草丈(cm) (7月20日)	37.5	36.3	1.2	38.2	36.6	1.6
本葉数(枚) (7月20日)	3.1	3.4	△ 0.3	3.2	3.7	△ 0.5
分枝数(本/株) (7月20日)	4.7	4.1	0.6	4.9	3.9	1.0

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：開花始は「男爵薯」が6月29日、「コナフブキ」が6月30日であり、ほぼ平年並であった。7月上中旬の多雨により、茎長は両品種とも平年を上回っているが、7月中旬の寡照の影響を受け、地上部はやや徒長している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	6.29	6.30	△ 1	6.30	7.1	△ 1
茎長(cm) (7月20日)	48	38	10	72	59	13
茎数(本/株) (7月20日)	3.6	3.4	0.2	3.6	2.9	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：7月上旬にまとまった降雨があったことから、地下部の肥大が順調に進み、移植栽培では根重、根周は平年を上回っている。しかし、直播栽培では根周は平年並であるが、根重は平年を下回っている。地上部の生育は、移植・直播栽培ともに平年並である。

以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	57.5	56.6	0.9	52.7	53.6	△0.9	53.5	49.6	3.9
生葉数(枚) (7月20日)	22.7	20.9	1.8	21.6	20.0	1.6	19.1	19.0	0.1
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	686	701	△ 15	663	670	△ 7	497	485	12
根重 (g/個体) (7月20日)	292	264	28	289	272	17	120	127	△ 7
根周(cm) (7月20日)	22.4	21.3	1.1	23.2	22.6	0.6	17.0	17.0	0.0

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況: 不良

事由: 1番草は平年より2日早い6月18日に収穫を行った。6月中旬の気温が平年と比べ極めて低く推移したことにより生育が停滞し、1番草の草丈は平年並であったが、生草収量と乾物率は平年を下回り、乾物収量は平年比82%と少なかった。一転して、6月下旬の気温は極めて高く、7月上旬もやや高く推移し、降水量にも恵まれたため、2番草再生時の草丈は平年よりやや高かった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
被度 (%)	2番草再生時	100	100	0
草丈 (cm)	1番草	102	101	1
	2番草再生時	38	35	3
生草収量 (kg/10a)	1番草	2315	2685	△ 370
乾物率 (%)	1番草	23.0	24.9	△ 1.9
乾物収量 (kg/10a)	1番草	532	649	△ 117

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。



## 10) たまねぎ

作 況：平年並

事 由：6月下旬～7月上旬の気温は高めに推移し、7月中旬は極低温に経過したものの、降水量が多かったことから生育は順調であった。「改良オホーツク1号」の球肥大期は平年並の7月7日であった。「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」とともに草丈、生葉数、葉鞘径および球生重は平年並であり、葉身生重は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.7	7.7	0	-	7.21	-
草丈(cm) (7月20日)	82.1	73.8	8.3	84.2	79.3	4.9
生葉数(枚) (7月20日)	9.1	9.3	△ 0.2	9.9	10.5	△ 0.6
葉鞘径(mm) (7月20日)	20.9	19.2	1.7	22.2	20.9	1.3
葉身生重(g) (7月20日)	136.0	107.0	29.0	138.7	126.3	12.4
球生重(g) (7月20日)	101.2	98.6	2.6	52.1	50.7	1.4

注) 平年値は平成15年から平成19年までの5か年の平均(平成20年は暴風雨被害により成績を参考扱いとして除く)